

第34回 今野賞

(令和6年度)

募集要項

「第34回今野賞」の応募の受け付けを行います。今野賞は、宮城県の特別支援教育の振興を図るため設けられました。設立から34年目を迎え、教育賞として高い評価を得ています。

本募集要項をご覧の上、関係各位には推薦について格別のご協力とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

公益信託

今野芳雄記念宮城県心身障害児教育振興基金

1 今野賞の目的

障害のある子供たちの教育は、一人一人に応じた支援が必要とされています。

特別支援学校や、小・中学校などの特別支援学級や通常の学級、通級による指導（高等学校を含む）などで、現在障害のある子供たちの指導の充実を図ることが求められています。

「今野賞」は特別支援教育現場で、意欲的に研究に励み、創意あふれる指導を行い、優れた業績をあげている教育者を広く県内から選び、その功績の顕彰及び研究を助成することにより、現場で指導にあたる人々の励みとし、創造性豊かな教育環境が一層進むことを目的としています。

2 募集部門・募集対象

| 募集部門 | 募集対象 |
|---|---|
| A 功績者顕彰（推薦） 特別支援教育に意欲的に取り組み、優れた学校経営ならびに学級経営、学習指導、研究を行うなど、その振興に顕著な貢献をされた方、又は、団体及び研究会を顕彰します。 | <ul style="list-style-type: none">・県内小・中学校特別支援学級担任、通級による指導の担当者(高等学校を含む)、養護教諭、栄養教諭、特別支援学校の教員。・特別支援教育の指導的立場にある者。・団体及び研究会。 |
| B 若手指導者育成（推薦） 特別支援教育では、障害のある子供たちの社会参加と社会自立を図るため、障害の状態等に応じて教育内容や方法を工夫していくことが求められています。 こうした課題解決に、熱意をもって努力してきた40歳未満の方の具体的な実践例を期待します。 | <ul style="list-style-type: none">・40歳(令和7年3月31日現在)未満の方。・県内小・中学校特別支援学級担任、通級による指導の担当者(高等学校を含む)、養護教諭、栄養教諭、特別支援学校の教員。・その他の特別支援教育の担当者。 |
| C 課題研究助成（推薦） 特別支援教育が抱えている緊急で、今日的課題を解決するための専門性の高い研究を計画・実践してきた40歳以上の方、又は、団体及び研究会に対し助成します。特に、創意と工夫にあふれ、この教育の発展に役立つ実践例を期待します。 | <ul style="list-style-type: none">・40歳(令和7年3月31日現在)以上の方。・県内小・中学校特別支援学級担任、養護教諭、栄養教諭、通級による指導の担当者(高等学校を含む)、特別支援学校の教員。・その他の特別支援教育の担当者。・団体及び研究会。 |
| D 通常の学級における実践研究助成（推薦） 通常の学級において、学びにくさや不適応状態を示す子供たちの存在がクローズアップされています。 このような子供たちを含めた通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする子供たちに対する指導等に関しての実践研究をしている方、又は団体及び研究会に助成します。通常の学級担任の方やそれを支援している特別支援学級担任等の具体的な実践例を期待します。 | <ul style="list-style-type: none">・県内小・中・高等学校の通常の学級担任、養護教諭、栄養教諭。・通常の学級を支援する特別支援学級担任。・通級による指導の担当者(高等学校を含む)。・その他の特別支援教育の担当者。・団体及び研究会。 |

- ・今野賞の目的に鑑み、上記B部門、C部門、D部門は重複して応募できません。
- ・昨年度受賞（入賞を除く）された方は、本年度応募できません。
- ・昨年度入賞された方については、入賞論文を再構成して応募すること、又は別の論文を応募することができます。

3 応募方法

(1) 推薦の方法

- ・所属長又は関係機関が推薦者となります。
- ・様式1（推薦票）に必要事項を記入してください。

(2) 提出書類及び留意点

- ・様式3-1、3-2は、次の①②に該当し、団体として応募する場合は提出不要です。

①国または地方公共団体および100%出資会社、外国政府、外国の地方公共団体、駐日外国公館

②公証人、特殊法人、認可法人、独立行政法人、国公立大学法人、公益財団法人、公益社団法人、社会福祉法人、特別民間法人

※教員等の個人からの応募、各種教育研究会が団体で応募する場合は3-1が必要
です。また、私立学校が団体で応募する場合は3-2の提出が必要です。

| 募集部門 | 提出書類 | 留意点 |
|--------------------------------|--|---|
| A 功績者顕彰 | <ul style="list-style-type: none"> ・様式1（推薦票） ・様式2（経歴書） ・様式3-1または3-2 （反社会的勢力でないことの表明・ 確約書） ・功績を証明する資料【形式自由】 | <ul style="list-style-type: none"> ・団体及び研究会の場合は代表者名をもって記入してください。 |
| B 若手指導者育成 D 通常の学級における実践研究助成 | <ul style="list-style-type: none"> ・様式1（推薦票） ・様式2（経歴書） ・様式3-1または3-2 （反社会的勢力でないことの表明・ 確約書） ・応募者自身による実践論文 A4判で形式自由。ただし、資料を含め10ページ以内。1,000字以内の要約文を添付のこと。 【以上、厳守のこと】 | <ul style="list-style-type: none"> ・実践論文は、過去3年以内にまとめたもので、発表・未発表は問いません。ただし、大学や県総合教育センター等の研修に伴うものは除きます。 ・実践論文は、発表に関して本人もしくは保護者の同意を得ていることが必要です。承諾を得た旨を本文中に記載してください。 ・受賞（入賞を除く）された論文は今野賞のホームページに掲載します。本人のプライバシーに配慮した論文作成をお願いします。 ・応募された論文は返却いたしません。 |
| C 課題研究助成 | <ul style="list-style-type: none"> ・様式1（推薦票） ・様式2（経歴書） ・様式3-1または3-2 （反社会的勢力でないことの表明・ 確約書） ・応募者自身による研究計画・実践論文 形式及び要約文はB・D部門に準ずる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・実践論文は未発表のもので、応募時に他の団体の懸賞論文等に多重応募していません。 ・実践論文は、発表に関して本人もしくは保護者の同意を得ていることが必要です。承諾を得た旨を本文中に記載してください。 ・受賞（入賞を除く）された論文は今野賞のホームページに掲載します。本人のプライバシーに配慮した論文作成をお願いします。 ・応募された論文は返却いたしません。 |

(3) 作成上の留意点

- ・生成A I等を使用しての論文作成は認めません。

(4) 送付先等

- ・提出書類一式を以下の送付先へ郵送願います。
- ・論文と要約文は、その電子データ（ワード、一太郎）もメールに添付して提出願います。
- ・送付先：宮城教育大学附属特別支援学校長 あて（担当者：教頭 遠藤 亮一）

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉395-2

T E L 022-214-3353

F A X 022-214-3362

E-mail tokushi@tokushi.miyakyo-u.ac.jp

(5) 応募締切 令和6年10月25日（金）必着

4 審 査

(1) 応募方法に沿って提出されたものの中から、下記のとおり受賞者を選びます。

| | |
|-------------------|-----------------------|
| A 功績者顕彰 | ・若干数 |
| B 若手指導者育成 | ・最優秀賞1件 ・優秀賞2件以内 |
| C 課題研究助成 | ・最優秀賞1件 ・優秀賞1件 |
| D 通常の学級における実践研究助成 | ・最優秀賞1件又は優秀賞2件以内 |

※ 上記のほか、全応募の中から入賞10件程度を選びます。

(2) 審査の観点

| | |
|--|---|
| A 功績者顕彰 | ① 特別支援教育に著しい貢献をしたか ② 優れた学校経営ならびに学級経営、学習指導、研究を行ってきたか ③ 長年にわたり特別支援教育の振興・実践に努め、意欲的に取り組んできたか <u>団体及び研究会</u> ：30年以上の教育実践と県全体の特別支援教育振興への貢献（自主公開研究会等による実践の積み重ね、研修会等の継続的な実施による地域への貢献） <u>個人</u> ：10年以上にわたる意欲的な教育実践と優れた学校経営ならびに学級経営、学習指導、研究の積み重ね |
| B 若手指導者育成 C 課題研究助成 D 通常の学級における実践研究助成 | ① 目標・内容・方法が的確にとらえられているか ② 研究・実践に実証性・独創性があるか ③ 研究・実践の成果や課題が明確になっているか ④ 論文の構成及び叙述が適切か |

5 助成金の金額

A 功績者顕彰

2件 × 5万円程度

B 若手指導者育成

最優秀賞 1件 × 10万円

優秀賞 2件以内 × 5万円

C 課題研究助成

最優秀賞 1件 × 10万円

優秀賞 1件 × 5万円

D 通常の学級における実践研究助成

最優秀賞 1件×10万円 又は 優秀賞 2件×5万円以内

上記のほか、全応募から入賞10件程度×2万円

6 発表と表彰

- ・受賞者は、令和7年1月15日までに本人又は代表者に通知します。
 - ・表彰式は、令和7年2月上旬に行う予定です。その席上で賞状と目録をお贈りします。
- 表彰式の日程や場所等については、受賞の通知書に記載します。

7 選考委員

| | |
|--------|---|
| 澁谷 榮 昭 | 元 宮城県教育庁特別支援教育室長 元 宮城県立光明支援学校長 |
| 辻 誠 一 | 東北福祉大学教授 元 宮城県特別支援教育研究会知的障害教育専門部長 元 宮城県特別支援教育センター所長 |
| 赤間 宏 | 元 宮城県特別支援教育研究会言語障害・発達障害教育専門部長 元 仙台市教育局学校教育部特別支援教育課長 |
| 栗林 正 見 | 元 宮城県特別支援教育研究会肢体不自由病弱教育専門部長 |
| 跡部 久 美 | 宮城県特別支援学校長会 今野賞担当 宮城教育大学附属特別支援学校長 |
| 菅原 理 恵 | 宮城県特別支援学級設置学校長協議会副会長 気仙沼市立津谷小学校長 |
| 高橋 昌 子 | 仙台市小学校教育研究会特別支援教育部会長 仙台市立大沢小学校長 |
| 廣島 利 夫 | 仙台市中学校教育研究会特別支援教育研究会会長 仙台市立三条中学校長 |
| 遠藤 浩 一 | 宮城県特別支援教育研究会会長 宮城県立光明支援学校長 |
| 野崎 義 和 | 宮城教育大学 准教授 |
| 若山 洋 | 宮城県教育庁特別支援教育課副参事（班長） |
| 高楯 美奈子 | 仙台市教育委員会特別支援教育課主幹 |

8 今野賞のホームページ <https://tokushi.miyakyo-u.ac.jp>

今野賞

応募要項、受賞者一覧（最優秀賞並びに優秀賞論文を含む）
を掲載しています。

クリックして下さい

今野賞のお問い合わせは

〒980-0811 仙台市青葉区一番町三丁目1-1

仙台ファーストタワービル7階

みずほ信託銀行仙台支店内

「今野賞運営委員会」係

担当 石丸、高橋

TEL 022-225-7692

FAX 022-264-2664

「今野賞」受賞者（令和3年度～令和5年度）

| 年度 | 部門 | 賞 | 氏名 | 学校名・団体名 | 題名 |
|------|----|----|-------|--------------------|--|
| 令和3年 | A | 該当 | 鎌田百合子 | 柴田町立船迫中学校 | |
| | B | 優 | 渡部 明希 | 宮城教育大学附属 特別支援学校 | 伝わる喜び、伝える意欲を育む学習活動の実践 ～卒業後を見据えたコミュニケーションツールの活用を通して～ |
| | | 入 | 中嶋 輝 | 塩竈市立第二小学校 | 児童が自ら活動に取り組もうとする授業づくり ～自己効力感を高めるための支援を通して～ |
| | C | 優 | 海部裕美子 | 宮城県蔵王高等学校 | 困難を克服し意欲を持って主体的に学ぶ生徒の育成 ～通級による指導と授業のユニバーサルデザイン 化の3年間の実践を通して～ |
| | | 入 | 野地 清 | 宮城県立西多賀支援学校 | 重度重複障害を有する児童生徒への教材・教具 の活用と反応の検討 ～ICT機器を使った客観的な評価方法を探る一試 み～ |
| | | 入 | 八嶋 貴彦 | 宮城県立船岡支援学校 | 主体的・対話的で深い学びを目指した道徳指導 の一試み ～特別支援学校での「探検の対話（P4C）」を活 用した授業実践を通して～ |
| | | 入 | 近江 由美 | 蔵王町立宮小学校 | 書字に困難さを示すTさんが自ら書こうとするま での指導 ～心理面を尊重した取組～ |
| | | D | 優 | 川村 修弘 | 宮城教育大学附属 特別支援学校 |
| | 優 | | | 仙台市立国見小学校 | 多様なニーズに対応した教育の充実を目指して ～「ハッピールーム」を核とした全校支援体制の 工夫を通して～ |

| 年度 | 部門 | 賞 | 氏名 | 学校名・団体名 | 題名 |
|------|----|----|-------|---------------------------|---|
| 令和4年 | A | 該当 | | 宮城県特別支援教育研究会 言語障害教育専門部 | |
| | B | 優 | 村上優樹里 | 仙台市立大和小学校 | 自立活動における「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 ～児童と共に行った課題分析によるはさみスキル形成の検証を通して～ |
| | | 入 | 佐藤 友宙 | 仙台市立 鶴谷特別支援学校 | 特別支援学校小学部低学年における算数科の指導 ～「数の概念」を身に付けるための教材開発～ |
| | C | 優 | 早坂 和枝 | 大崎市立古川第五小学校 | 正しい発音ができる喜びを実感し、日常生活の中で活用していこうとする意欲を育てるための指導と評価の一試み ～言語通級指導教室における「置換性構音障害」の指導を通して～ |
| | | 入 | 椿 啓子 | 大衡村立大衡小学校 | 軽度知的障害児に対する平仮名の読み書き指導 ～楽しみながら読み書きできるものを増やす～ |
| | | 入 | 田村 郷 | 宮城県立西多賀支援学校 | 筆記の困難な生徒が効率的に問題演習に取り組むための授業の一試み ～自作問題演習アプリの活用を通して～ |
| 令和5年 | B | 優 | 遊佐 尚己 | 岩沼市立岩沼小学校 | 肢体不自由学級における指導の実践 ～Aさん、Bさんへの指導から～ |
| | C | 優 | 津島 弘子 | 大衡村立大衡小学校 | 「ことばの教室」における側音化構音指導の一試み 自作の「唱えて覚える発音練習プリント」を活用した視覚的・聴覚的アプローチを通して |
| | D | 入 | 藤谷 祐輔 | 丸森町立舘矢間小学校 | 専任の特別支援教育コーディネーターとしての一試み ～「誰一人取り残さない教育」のための発達支持的生徒指導の実践～ |

【賞の欄】最優：最優秀賞 優：優秀賞 入：入賞

第34回 今野賞 推薦票

| 部 門 | A 功 績 者 顕 彰 | B 若 手 指 導 者 育 成 | C 課 題 研 究 助 成 | D 通 常 の 学 級 に お け る 実 践 研 究 助 成 |
|-----------------|------------------------------|-----------------|---------------|---------------------------------|
| 題 名 | (功績者の場合、記入しなくてもよい。) | | | |
| 本人の職氏名 | 職 氏名 昭和 年 月 日生 (歳) 平成 | | | |
| 本人の勤務校の所在地、名称 | 〒 TEL | | | |
| 推薦理由 推薦者の職氏名 | 職 氏名 団 | | | |

- 該当する部門の記号を○で囲んでください。
- 年齢は令和7年3月31日現在で記入してください。

様式 2

経 歴 書

フリガナ
氏 名

昭和
平成

年

月

日生

現住所

| 年 月 日 | 経 歴 事 項 |
|-------|---------|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |

〈記入について〉

- 最終学歴とそれ以降の職歴、研修歴、受賞関係を記入してください。
- Bの若手指導者育成又は、Dの実践研究助成への応募者で、実践論文を既に発表している場合は、発表年月日と発表の場を最終欄に記入してください。

様式 3-1

反社会的勢力でないことの表明・確約書(受給申請者(個人・任意団体))

公益信託今野芳雄記念宮城県心身障害児教育振興基金 受託者みずほ信託銀行株式会社 あて

- 私は、自らが、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者（以下これらを「暴力団員等」という。）に該当しないこと、および次の各号のいずれにも該当しないことを表明し、かつ将来にわたっても該当しないことを確約いたします。
 - 暴力団員等が経営を支配していると認められる関係を有すること
 - 暴力団員等が経営に実質的に関与していると認められる関係を有すること
 - 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を加える目的をもってするなど、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること
 - 暴力団員等に対して暴力団員等であることを知りながら資金を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること
 - 役員または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること
- 私は、自らまたは第三者を利用して次の各号の一にでも該当する行為を行わないことを確約いたします。
 - 暴力的な要求行為
 - 法的な責任を超えた不当な要求行為
 - 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
 - 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて信託受託者であるみずほ信託銀行株式会社の信用を毀損し、または信託受託者であるみずほ信託銀行株式会社の業務を妨害する行為
 - その他前各号に準ずる行為
- 私は、自らが暴力団員等もしくは第1項各号のいずれかに該当し、もしくは前項各号のいずれかに該当する行為をし、または第1項の規定にもとづく表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明したときは、受託者からの通知によりこの公益信託からの助成金の交付が停止・廃止されても一切の異議を申し立てず、また、受託者からの求めに応じて、既にこの公益信託から受給した助成金の全額を直ちにこの公益信託に返還いたします。
また、これにより費用または損害が生じた場合でも、私の責任として、賠償ないし補償を求めないものといたします。

西暦 年 月 日

おところ 〒
〔 個人：自宅住所 〕
〔 任意団体：代表者住所 〕

おなまえ（自署）
〔 任意団体：代表名・代表者印 〕



（生年月日（西暦） 年 月 日）

様式 3-2

反社会的勢力でないことの表明・確約書(受給申請者(法人))

公益信託今野芳雄記念宮城県心身障害児教育振興基金 受託者みずほ信託銀行株式会社 あて

- 私(法人の場合は、当該法人の役員等を含み、以下「当社」と読み替える。)は、自らが、暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から5年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロまたは特殊知能暴力集団等、その他これらに準ずる者(以下これらを「暴力団員等」という。)に該当しないこと、および次の各号のいずれにも該当しないことを表明し、かつ将来にわたっても該当しないことを確約いたします。
 - 暴力団員等が経営を支配していると認められる関係を有すること
 - 暴力団員等が経営に実質的に関与していると認められる関係を有すること
 - 自己、自社もしくは第三者の不正の利益を図る目的または第三者に損害を加える目的をもってするなど、不当に暴力団員等を利用していると認められる関係を有すること
 - 暴力団員等に対して暴力団員等であることを知りながら資金を提供し、または便宜を供与するなどの関与をしていると認められる関係を有すること
 - 役員または経営に実質的に関与している者が暴力団員等と社会的に非難されるべき関係を有すること
- 私は、自らまたは第三者を利用して次の各号の一にでも該当する行為を行わないことを確約いたします。
 - 暴力的な要求行為
 - 法的な責任を超えた不当な要求行為
 - 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
 - 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて信託受託者であるみずほ信託銀行株式会社の信用を毀損し、または信託受託者であるみずほ信託銀行株式会社の業務を妨害する行為
 - その他前各号に準ずる行為
- 私は、自らが暴力団員等もしくは第1項各号のいずれかに該当し、もしくは前項各号のいずれかに該当する行為をし、または第1項の規定にもとづく表明・確約に関して虚偽の申告をしたことが判明したときは、受託者からの通知によりこの公益信託からの助成金の交付が停止・廃止されても一切の異議を申し立てず、また、受託者からの求めに応じて、既にこの公益信託から受給した助成金の全額を直ちにこの公益信託に返還いたします。
また、これにより費用または損害が生じた場合でも、私の責任として、賠償ないし補償を求めないものといたします。

西暦 年 月 日

おところ(法人住所) 〒

おなまえ(法人名)

印

代表者名